

歴史書 通信

9

2018 No. 239

東アジアのなかの日本経塚信仰 [菅野成寛]

歴史書新刊ニュース(7・8月)

歴史書以外の人文社会図書新刊案内(7・8月)

歴史系学会・シンポジウム開催情報



歴史書懇話会

東アジアのなかの 日本経塚信仰

菅野 成寛

(岩手大学平泉文化研究センター客員教授)

最近、思いもかけず経塚信仰の研究に手をそめてしまった。当初は新たな史料の発掘でも、との軽い発端だったが、調べ始めて間もなく、これは永年の通説、日本由来のものではないことに気づかされた。

経塚信仰とは、^{させん}作善や追善のため、山稜および高地など勝地に塚を築いて地中への埋経（主に法華経）を試みる信仰形態のことで、平安末期の列島中を席卷した一大ムーブメントであった。最近、北海道の厚真町でもその物証が確認され、日本起源であることは信じて疑われていない。

だが、埋経信仰の初見史料とされる比叡山の『修善講式』(989・991年撰)には、「卒塔婆」を建てた地中に「仏・経」ほかを「埋納」して「靈験の仏地」とする旨が記されるが、どうもこの発想は日本独自のものとは見なせない。なぜなら、仏塔（卒塔婆）が建つ地中への経典埋納の前例は我が国では皆無で、その比叡山で突如として創案された供養法とは見なし難いからだ。釈迦の金言として特別に尊崇され続けてきた経典を、何らかの根拠や歴史的な前提な

くして土中に無分別に埋納する冒瀆をあえて犯すとは考えられない。

では10世紀末の比叡山で、経典を地中へ埋納するにいたった経緯とは何か。実は10世紀後期の中国大陸では、仏塔の地下、地宮への仏舎利と経典の納入例が見出され、経典を地中に埋納した日本経塚信仰の先行例ともなっていた。

たとえば10世紀後期、静志寺塔（河北省定州市）の地宮へ、『宝篋印経』を納入した経筒（965年銘の銭弘俶塔）が埋納されたのは太平興国2年（977）のことであった。この地宮の内部には、釈迦の遺骨にあたる仏舎利にかわってその位牌が壁画化され、釈迦が教主の『宝篋印経』とあわせて釈迦信仰を体現したものとなっていた（出光美術館編『地下宮殿の遺宝』1977年）。また同年建立の雷峰塔（浙江省杭州市）の地宮と天宮においても、経筒（銭弘俶塔、写真1）と仏舎利容器が納入されたことが近年の発掘調査で判明している（浙江省文物考古研究所編『雷峰塔遺址』2005年）。

実はそれら静志寺塔や雷峰塔の経



写真1 銭弘俵塔（雷峰塔・天宮納入、中国浙江省博物館蔵）

筒と同類の、顕徳3年（956）銘の銭弘俵塔が比叡山僧の関与で舶載されたことが『扶桑略記』応和1年（961）11月20日条他から知られる。では叡山の『修善講式』における埋経とは、かくなる大陸の銭弘俵塔（阿育王塔、八万四千塔とも）をモデルとしたものだったろうか。

否、そうではあるまい。我が国の経筒の初見資料は寛弘4年（1007）銘の著名な藤原道長の逸品で（表紙写真・左）、『修善講式』と同年代の作品である。この金銅製経筒の形状は茶筒形の円筒形のものだが、対して銭弘俵塔は、正方形の上部の四隅に方立を立てて中央に相輪を屹立させた金属製の経筒で、両者の形状は完全に異なる。しかも

この銭弘俵塔に類似した日本製の経筒も皆無で、10世紀半ば過ぎの列島、叡山にはいまだ経塚信仰が兆していなかったことが知られる。

ところが何と朝鮮半島には道長銘の経筒と瓜二つの円筒形で、青銅製の仏舍利容器が実在した。金山寺五層石塔（全羅北道金堤郡）の内部に納入された太平興国7年（982）のもの（表紙写真・右）と、統和15年（997）の伝・安城長命寺（伝・京畿道安城郡）銘の仏舍利容器で（ソウル・中央国立博物館編『仏舍利莊嚴』1991年）、年代は道長銘の経筒にやや先行する。

それだけではない。高麗大学校博物館（ソウル市）所蔵の金銅製の経筒がある（写真2）。台座には二重蓮弁文をめぐらした円筒形のもので、円筒の上部には梵字らしき記号を陰刻し、撮み付きの蓋を被せる。東国大学校の崔應天教授（金属工芸史）は、二重蓮弁文の意匠を羅末麗初のものとし、であれば900～950・60年代頃の作品か。ただ残念ながら来歴と出土地は不明とのことで、筒身の傷み具合から仏塔の内部か地中にあるものと見なされる（2017年9月5日調査）。



写真2 高麗大学校博物館の経筒（著者撮影）

これとまったくの同類が、ソウルの中央国立博物館に存在することを知った。台座の二重蓮弁文、金銅製の円筒上部の梵字らしき陰刻の記号、撮み付きの蓋など何から何まで高麗大学の経筒とソックリで、違いは半分ほどのサイズだけ。統一新羅期の製作とされる（韓国美術全集8・秦弘燮編『金属工艺』ソウル・同和出版公社、1974年）。一瞥してその記号は梵字の「ア」と見なされ、であれば高麗大学のそれは「ア」の異体字と判別される。

実は、これらの類似品が京都・鞍馬寺経塚から出土していた。12世紀の金銅製の経筒で、台座は二重蓮弁文、円筒形の筒身、撮み付きの蓋など、梵字こそ存在しないものの全体的によく相似する。二重蓮弁文にだけ着目すれば、同じ鞍馬寺経塚出土の金銅製の宝塔型経筒（12世紀）の台座にも見出せる（関秀夫『経塚とその遺物』日本の美術292、至文堂、1990年）。あるいは鞍馬寺経塚の経筒の遠祖こそ、半島の二重蓮弁文の経筒だったのではないか。その点で列島の道長銘経筒と、半島の2点の仏舎利容器との年代と形状とが合致する事実は示唆的で、道長銘経筒の被せ蓋には梵字で「南無妙法蓮華経」と刻まれていた。

大胆に言えば、大陸と半島の仏塔文化を父母として出生したのが列島の経塚信仰だったのではないか。経塚の共同研究者の一人、劉海宇氏（岩手大学平泉文化研究センター教授、中国考古学）

によれば、既に10世紀後期をはるかに遡る唐・貞観4年（630）にも、光善寺塔内への仏舎利と經典の納入例が知られるという。一方の半島でも同じ7世紀前期、大陸の影響からか仏塔の内部に仏舎利と經典がセットで納入され始め、統一新羅期から高麗期以降まで継続する。大陸や半島と一衣帯水の間柄にあった当該期の列島が、そういった文化的潮流に無頓着であったとは到底考えられない。通説の〈埋経日本起源説〉は、もはや一国主義史観的な幻想というほかあるまい。

では〈經典〉単独の納入は、いつ、どこでなのか。地中埋納ではないが、天平13年（741）、聖武天皇の詔による国分寺塔内への金字『金光明最勝王経』の納入が初例であり、宝亀元年（770）における称徳天皇勅願の〈百万塔陀羅尼〉（『続日本紀』）は、まさしく経筒そのものであった。

だが、これが約200年後の『修善講式』や道長銘経筒の埋経に直結したはずはなく、11世紀前後の半島、開京（現ケソン）や平壤など高麗文化の中心地の動向が気にかかる。と言うのも、ピョンヤン郊外の長寿峰（大城山城）から出土した石製の経箱には『法華経』が納入され（『墳墓と経塚』吉川弘文館・1987年所収の、坂詰秀一論文）、我が国の佐賀・千々賀経塚（1113年）や京都・浄土寺経塚（1287年）の出土品とも合致するからだ。北朝鮮の報告書は長寿峰のそれを5～6世紀とする

そうだが、その実年代が知りたいところである。ちなみに、前述した2点の円筒形の仏舎利容器も高麗初期の作例で、その高麗文化のなかに何か大きなヒントが隠されているに違いない。

最後に、〈仏舎利＋経典〉を伴った仏塔信仰の受容について簡単に触れておきたい。『興福寺流記』によれば、天平2年(730)創建の興福寺五重塔(光明皇后発願)の第2層から5層にいたる各層には、仏舎利と経典がセットで安置されたという。また天平宝字8年(764)には、聖武天皇勅願の東大寺東七重塔の最頂部、相輪上の宝珠の内部

にも同セットが祀られたことを『東大寺要録』(巻7)は記す。結論から言うと、これらは半島の仏塔信仰の直接的な反映と見られ、従来まったく見落とされてきたもう一つの彼我の関係を物語る重要な史実であった。

半島と列島との関わりは従来知られた以上に深く、もはや大陸や半島の影響なくして〈日本経塚信仰〉の成立を議論することはできまい。

[表紙写真]

右=金山寺五層石塔の仏舎利容器(ソウル・中央国立博物館編『仏舎利莊嚴』所収)
左=藤原道長銘経筒(金峯神社所蔵)

新刊ニュース

7・8月の新刊 *発売予定のものもあります

歴史一般 事典/年表・地図/歴史学・補助学

公益財団法人古代学協会編
角田文衛の古代学 1

後宮と女性

A 5判 400頁 5,000円

吉川弘文館 [7月刊]

後宮はすべての淵藪であり、個性的な女性たちがその活動を担った。角田文衛の独壇場の後宮史・人物史をテーマに、珠玉の論考を集成。

978-4-642-07896-2

考古学 概論・通史/日本/アジア/ヨーロッパ/アフリカ/アメリカ/その他

文：山岸良二/絵：さかいひろこ
親子でまなぶ たのしい考古学

A 5判 168頁 1,700円

同成社 [7月刊]

小学校中学年～中学生を対象に考古学の話題をわかりやすく紹介。テーマごとに保護者向けの解説頁を設け親子一緒に考古学を楽しめる本。

978-4-88621-801-8

河村日下著
「邪馬台国」論争は終わった

四六判 492頁 4,000円

ミネルヴァ書房 [7月刊]

卑弥呼はどこにいたのか。倭人伝の記述、水城の論理、金印の銘文。いま、長年の論争が確実に終結する。

978-4-623-08219-3

大下隆司 山浦純著
「日出処の天子」は誰か

よみがえる古代の真実

A 5判 248頁 1,800円

ミネルヴァ書房 [8月刊]

聖徳太子ではない！教科書などで教えられてきた「日出処の天子」=聖徳太子は何の根拠もない虚像だった。

978-4-623-08388-6

岡村道雄著
縄文の列島文化

四六判 240頁 1,800円

山川出版社 [7月刊]

日本列島の縄文時代は、地域によって異なる文化を育てていた。近年の研究成果から明らかになった、意外に豊かな縄文人の生活について論じる。

978-4-634-15133-8

相原嘉之著
飛鳥・藤原の宮都を語る

「日本国」誕生の軌跡

A 5判 208頁 1,900円

吉川弘文館 [8月刊]

推古朝の豊浦宮の発掘、高松塚古墳壁画の救出、新発見を語るコラムなどを掲載。世界遺産登録を目指す「飛鳥・藤原」の魅力を描く。

978-4-642-08338-6

松本建速著
つくられたエミシ

(市民の考古学 15)

四六判 202頁 1,900円

同成社 [8月刊]

古代日本国が征討したとされるエミシ。しかし彼らは実在していなかった!? 考古学や文献史学、言語学の手法を駆使して隠された真相に迫る。

978-4-88621-803-2

日本史

概論・通史/史料/古代/中世/近世/近代/現代/地方史

国立歴史民俗博物館編

わくわく!探検 れきはく日本の歴史 2

中世

B 5判 86頁 1,000円

吉川弘文館 [7月刊]

小中学生が日本の歴史と文化を楽しく学べる新シリーズ。中世の展示をもとにしたストーリー性重視の構成で、大人も楽しめる!

978-4-642-06822-2

山口 博著

北条氏五代と小田原城

(人をおるく)

A 5判 176頁 2,000円

吉川弘文館 [7月刊]

初代宗瑞から5代氏直まで、民政で独自の手腕を見せ、一族が結束して支配を広げたその実像に迫る。北条時代の小田原宿も訪ねる。

978-4-642-06796-6

伊藤 邦彦著

「建久四年曾我事件」と初期鎌倉幕府

曾我物語は何を伝えようとしたか

A 5判 744頁 16,800円

岩田書院 [7月刊]

『鎌倉幕府守護の基礎的研究』(岩田書院 2010)の著者が、全編、書き下ろしの新稿で問う、歴史学の立場からみた「曾我物語」成立論。

978-4-86602-044-0

田端 泰子著

室町將軍の御台所

日野康子・重子・富子(歴史文化ライブラリー 474)

四六判 238頁 1,700円

吉川弘文館 [8月刊]

室町將軍歴代の妻となった公家の日野家出身の女性はいかに生きたのか。その政治的な役割と人生を時代情勢の推移とともに描く。

978-4-642-05874-2

渡邊大門 著

戦国時代の表と裏

四六判 304頁 2,000円

東京堂出版 [7月刊]

少し脇道に逸れた戦国史を描くことで、戦国時代とはどのような時代だったのかを知ることができる最良の書。

978-4-490-20990-7

高木久史著

撰銭とビター文の戦国史

(中世から近世へ)

四六判 224頁 1,800円

平凡社 [8月刊]

貨幣、とりわけ「銭」に注目し、信長～家康期の貨幣統合過程の足跡を辿り、中世と近世の転換点を探る。カネという社会通念を軸にしてはじめて見えてくる戦国・江戸期の実態に迫る。

978-4-582-47740-5

末柄 豊著

戦国時代の天皇

(日本史リブレット 82)

A 5変型 120頁 800円

山川出版社 [7月刊]

室町幕府が衰退し、戦国時代の朝廷は困窮していた。天皇の日記等から実態に迫り、難しい舵取りを迫られた天皇が何を守ろうとしたのかを考える。

978-4-634-54694-3

白根陽子著

女院領の中世的展開

(中世史選書 25)

A 5判 288頁 6,600円

同成社 [8月刊]

中世前期から後期にかけての長期にわたって、女院領における天皇(院)の追善仏事を検証し、女院の独立性と特質を明らかにする。

978-4-88621-800-1

下野近世史研究会編

近世下野の生業・文化と領主支配

A 5判 438頁 9,000円

岩田書院 [7月刊]

新たな下野近世史へ向けて15論文を収録。阿部昭・平野哲也・仲沢隼・西村陽子・高山慶子ほか。

978-4-86602-040-2

斉藤 司著

福原高峰と「相中留恩記略」

近世民間地誌にみる「国」意識(近世史研究叢書 51)

A 5判 300頁 6,800円

岩田書院 [7月刊]

江戸後期、相模国名主・福原高峰が編纂した地誌から、その意図・目的を考究。

978-4-86602-043-3

西田知己 著
実は科学的な生活を送っていた江戸っ子たち
 A 5判 224頁 予価1,800円 東京堂出版 [8月刊]

江戸時代の人々の日常生活に入り込んでいた化学・医学・天文学など「理科的なもの」に焦点を当て、意外と進んでいた生活風景を探っていく。
 978-4-490-20991-4

大森映子 著
お家相続
 大名家の苦闘（読みなおす日本史）
 四六判 220頁 2,200円 吉川弘文館 [8月刊]

江戸時代、大名家は突然の事態にどのように対処したか。公的な記録に表れない不自然な事例から、存続をかけた大名家の苦労を探る。
 978-4-642-06766-9

明治維新史学会
明治維新史研究の諸潮流
 （講座 明治維新 12）
 A 5判 312頁 3,400円 有志舎 [8月刊]

講座全体の総括として、政治・経済・外交・社会・ジェンダーなどの視点・方法論から、明治維新史研究の到達点と新たな課題を提示。
 978-4-908672-23-1

上田純子・公益財団法人僧月性顕彰会編
幕末維新のリアル
 変革の時代を読み解く7章
 四六判 296頁 2,200円 吉川弘文館 [7月刊]

幕末維新史の諸相を、第一線で活躍する7人の研究者が多角的に読み解く。「明治維新」論を単線的な近代国家建設物語から解き放つ。
 978-4-642-08337-9

尾脇秀和 著
刀の明治維新
 「帯刀」は武士の特権か？（歴史文化ライブラリー 472）
 四六判 288頁 1,800円 吉川弘文館 [7月刊]

「刀」は誰が差すものか？ 武器からファッション・身分標識・旧弊のシンボルへと移り変わる姿を追い、「帯刀」の本当の意味に迫る。
 978-4-642-05872-8

諸 点淑 著
植民地近代という経験
 植民地朝鮮と日本近代仏教
 A 5判 348頁 7,500円 法蔵館 [6月刊]

植民地朝鮮で展開された日本仏教の社会事業を、帝国史的視角から分析し、日本仏教の近代性や日朝間の拮抗・連関関係をあぶり出した野心作。
 978-4-8318-5552-7

小沢郁郎 著
改訂版 つらい真実
 虚構の特攻隊神話
 四六判 224頁 1,700円 同成社 [7月刊]

純粋さや愛国心のみが強調される特攻隊像の真実を、体当たりの技術、戦果と犠牲の実態など、あらゆる側面からあばく。ベストセラーの改訂版。
 978-4-88621-802-5

伊藤泉美 著
横浜華僑社会の形成と発展
 幕末開港期から関東大震災復興期まで
 A 5判 520頁 8,000円 山川出版社 [8月刊]

幕末の開港以後、中国人が横浜に進出し、中華街を形成した。その後の発展までを含め、横浜華僑社会の歴史的過程を明らかにする。
 978-4-634-52024-0

藤田嗣治 著 林 洋子 編
藤田嗣治 戦時下に書く
 新聞・雑誌寄稿集 1935～1956年
 四六判 344頁 3,500円 ミネルヴァ書房 [8月刊]

戦時下の藤田の主要な著作を初めてまとめて復刻し、論考とあわせ、絵画と文章の相関関係から新たな藤田の戦争画像を浮かび上がらせる。
 978-4-623-08361-9

世界史

概論・通史／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／オセアニア

鈴木 董 著
文字と組織の世界史
 「文字世界」文明の興亡
 A 5判 300頁予定 1,800円 山川出版社 [8月刊]

文明を「文字世界」として可視化し、歴史上の巨大帝国を「支配組織」の比較優位で捉え直す、トインビーを乗り越える新たな「文明論」の登場！
 978-4-634-15058-4

島田竜登編

1789年 自由を求める時代

(歴史の転換期 ⑧)

四六判 300頁予定 3,500円

山川出版社 [8月刊]

フランス革命の年に人類は何を考えていたのか。ロシアの毛皮商人から東南アジアの海賊まで、世界各地で見られた自由を求める動きを追う。

978-4-634-44508-6

菊安 望著

歴史がわかる！世界の国旗図鑑

B5判 256頁 2,300円

山川出版社 [8月刊]

2017年8月刊行の『世界の国旗・国章歴史大図鑑』を小学高学年～中学生向けにリライト。世界各国の国旗から世界の歴史と風土を学べる1冊。

978-4-634-15136-9

津田資久 井ノ口哲也編著

教養の中国史

A5判 370頁 2,800円

ミネルヴァ書房 [7月刊]

始皇帝以前の先秦から21世紀の現代に至るまで図版を豊富に掲載し、学べきポイントを整理する。中国をまるごと学ぶよこびを伝える。

978-4-623-08031-1

上野敏彦著

辛基秀 朝鮮通信使に掛ける夢

世界記憶遺産への旅

四六判 392頁 2,800円

明石書店 [7月刊]

朝鮮通信使研究や映画等を通じて朝鮮半島との橋渡し役を担おうとした辛基秀。その生涯を描いた評伝の増補改訂版。

978-4-7503-4697-7

山崎耕一著

フランス革命

「共和国」の誕生 (刀水歴史全書 96)

四六五判 400頁 3,000円

刀水書房 [8月刊]

「革命前夜のフランスの状況」から始め、「革命」とは何か、諸々の動きと人々の生き方、共和国からナポレオンの登場まで、すべてを理解できる革命史！

978-4-88708-443-8

青山由美子著

11～12世紀のフランドル伯の尚書部

A5判 250頁 5,000円

刀水書房 [8月刊]

1071年から1168年(11～12世紀)この時期のフランドルにおける尚書部の厳密な研究がベルギー本国でも見落とされてきた。新視点による展開に期待！

978-4-88708-444-5

森田安一著

ルター

ヨーロッパ中世世界の破壊者 (世界史リブレットA 50)

A5変型 108頁 800円

山川出版社 [8月刊]

カトリック体制や過激派宗教改革者と戦い、近代社会の扉へと近づいたルター。その一生を追いつながら宗教改革時代の歴史的考察を進める。

978-4-634-35050-2

高橋秀寿著

時間 / 空間の戦後ドイツ史

いかに「ひとつの国民」は形成されたのか

四六判 296頁 3,500円

ミネルヴァ書房 [7月刊]

時間 / 空間の変容のなかで「ひとつの国民」が形成されていく歴史的過程を追うことで、国民形成の分析モデルを提示していく。

978-4-623-08353-4

文化史

文化史一般 / 政治・外交・経済 / 思想・宗教 / 教育・科学 / 文学・美術・芸術 / 社会生活

中澤克昭著

肉食の社会史

四六判 432頁 2,500円

山川出版社 [8月刊]

日本人は長い間、肉食を禁じられてきたと考えられている。仏教伝来の影響、庶民の実際の有様など「穢れ」からくる肉食の実態に迫る。

978-4-634-15138-3

前田雅之著

書物と権力

中世文化の政治学 (史文化ライブラリー 473)

四六判 224頁 1,700円

吉川弘文館 [8月刊]

出版業が存在しない中世に、人は書物をどう入手していたか。書物の伝播・普及と権力との結びつきを解明。威信財としての機能に言及。

978-4-642-05873-5

王中江 著 吉田薫 訳
簡帛文献からみる初期道家思想の新展開

A 5判 320頁 6,500円 東京堂出版 [7月刊]

考古学の成果を取り入れ、新出土資料と伝世文献を関連付けて初期の道家思想を再検証。中国思想史に新たな視座を提供する画期的研究。

978-4-490-20989-1

末木文美士 著
仏教の歴史 2 東アジア

(宗教の世界史 4)
 四六判 336 + 8頁 3,500円 山川出版社 [8月刊]

アジアに広く伝わった仏教の中でも中央アジアを経由し、中国を中心に朝鮮・日本が相互に関連し発展していった漢伝仏教を、時代を追って紹介する。

978-4-634-43134-8

中川 武監修／溝口明則 著
古代建築

専制王権と世界宗教の時代（世界 宗教 建築史シリーズ）
 四六判 272頁 3,200円 丸善出版 [8月刊]

建築学の観点から宗教建築の歴史を解説するシリーズ。本書では地中海から東アジアにおける古代文明とその宗教建築の変遷を扱う。

978-4-621-30316-0

山本陽子 著
はじめての日本美術史

A 5判 208頁 2,000円 山川出版社 [8月刊]

私たちが見慣れた仏像や絵画などの意外と知られていないルーツや背景、鑑賞のポイントなどを、面白く分かりやすく解説したオールカラーの書籍。

978-4-634-15132-1

海野 聡 著
建物が語る日本の歴史

A 5判 336頁 2,400円 吉川弘文館 [7月刊]

建築物は歴史を語る証人である。寺院や城郭、住居など、原始から近代まで社会との関わりから建物を考える、新しい日本建築史入門！

978-4-642-08336-2

奥富敬之 著
日本人の名前の歴史

(読みなおす日本史)
 四六判 280頁 2,400円 吉川弘文館 [7月刊]

源・平・藤・橘、徳川、源太・平次・左近・権兵衛…。苗字・名前のルーツと多様な展開をわかりやすく軽妙に叙述する。

978-4-642-06765-2

吉村元男 著
大阪万博が日本の都市を変えた

工業文明の功罪と「輝く森」の誕生
 四六判 344頁 2,400円 ミネルヴァ書房 [7月刊]

本書は、万国博覧会や都市における公園の歩みを通じて、今までの日本と世界の歴史を振り返り、これからの文明の姿を模索するものである。

978-4-623-07764-9

神田より子 著
鳥海山修験

山籠りの生活と信仰
 A 5判 364頁 7,200円 岩田書院 [3月刊]

山形・秋田県境の3市町5地区の修験道の実態を永年にわたり調査研究した成果。今に伝わる暮らしや行事の中に、その姿を探る。

978-4-86602-034-1

福江 充 著
立山曼荼羅の成立と縁起・登山案内図

A 5判 394頁 8,600円 岩田書院 [7月刊]

立山曼荼羅成立の前提となった縁起・登山案内図を分析し読み解く。立山曼荼羅全点の略解説と文献目録を付す。

978-4-86602-042-6

伝 記

竹本千鶴 著
松井友閑

(人物叢書 291)
 四六判 320頁 2,300円 吉川弘文館 [8月刊]

織田信長の側近。「大名茶湯」を開花させ、堺代官、外交交渉役としても活躍。信長の信任篤く、政権を支えた生涯をたどる初の伝記。

978-4-642-05284-9

藤田 覚著
光格天皇自身を後にし天下万民を先とし
四六判 314頁 3,200円

ミネルヴァ書房 [7月刊]

幕府と時に対立しながらも、朝廷や御所の権威を高め、幕末から近代への出発点を切り開いた天皇の生涯を追う。

978-4-623-08387-9

稲葉継陽著
細川忠利ポスト戦国世代の国づくり (歴史文化ライブラリー 471)
四六判 256頁 1,800円

吉川弘文館 [7月刊]

細川家熊本藩主の初代忠利は、「天下泰平」への変革期にいかに育ち、統治者として自己形成していったか。その歴史的使命を探る。

978-4-642-05871-1

宮地正人著
土方歳三と榎本武揚幕臣たちの戊辰・箱館戦争 (日本史リブレット人 68)
A 5変型 120頁 800円

山川出版社 [7月刊]

江戸幕府の解体過程を辿りつつ、激動の幕末に旧幕陸軍・海軍のキーパーソンとして活躍した二人の生き様を描く。

978-4-634-54868-8

坂本一登著
岩倉具視幕末維新期の調停者 (日本史リブレット人 74)
A 5変型 112頁 800円

山川出版社 [7月刊]

幕末維新期に国家建設のために生涯をささげた岩倉具視。これまでのさまざまな評価を再検討しながら、政治家岩倉の等身大の姿を描く。

978-4-634-54874-9

林田治男著
エドモンド・モレル鉄道御普請最初より
四六判 330頁 3,500円

ミネルヴァ書房 [8月刊]

「近代化の指南役」ともいわれ日本鉄道敷設に多大な影響を与えたエドモンド・モレル。日英の一次史料から知られざる彼の実像に迫る。

978-4-623-08424-1

雑 誌**日本歴史**

日本歴史学会編集

8月号 (第843) = 7月刊
9月号 (第844) = 8月刊

日本史専門の月刊誌として、また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、研究者から一般社会人まで、幅広い各層が購読。

一年間直接購読料 8,300円 [税・送料込]

◆各種割引制度有

二年間前払い 16,000円 [税・送料込]

三年間前払い 23,500円 [税・送料込]

学生・院生 一年間 5,000円 [税・送料込]

A 5判 8月号 = 130頁、9月号 = 130頁
8月号 = 741円、9月号 = 741円

吉川弘文館 [7・8月刊]

歴史書以外の 人文社会図書新刊案内

2018.7・8

明石書店

- イスラエルを知るための62章【第2版】(エリア・スタディーズ) 立山良司 編著……………六判 2,000円 7月
 グアテマラを知るための67章【第2版】(エリア・スタディーズ) 桜井三枝子 編著……………四六判 2,000円 7月
 済州島を知るための55章(エリア・スタディーズ) 伊地知紀子 編著……………四六判 2,000円 8月
 北朝鮮を知るための51章【第2版】(エリア・スタディーズ) 石坂浩一 編著……………四六判 2,000円 8月
 ドローンの哲学 遠隔テクノロジーと「無人化」する戦争 グレゴワール・シャムユール 著/渡名喜 庸哲 訳
 ………………四六判 2,400円 8月
 西田幾多郎の実在論 AI、アンドロイドはなぜ人間を超えられないのか 池田善昭 著……………四六判 1,800円 8月

刀水書房

- 橘進「愛の詩集」 北山郁子 編……………A5判 1,000円 8月

法蔵館

- 浄土真宗本願寺派宗法改定論ノート 池田行信著……………A5判 2,800円 7月

歴史ニュース

- ◆月代わりで「歴史書懇話会・今月のオススメ」の連続ミニフェアを次の6書店で開催しています(かっこ内はフェア開始の日付)。◇天童市 TENDO 八文字屋(2006年7月～) / ◇新潟紀伊國屋書店新潟店(2007年8月～) ◇松江市今井書店グループセンター店(2008年6月～) / ◇大阪市喜久屋書店阿倍野店(2013年11月～) / ◇出雲市今井書店出雲店(2014年7月～) / ◇名古屋市ジュンク堂書店名古屋ロフト店(2015年6月～)。
- ◆広島に1945年8月6日午前8時15分原爆が投下されて、今年は73年。松井市長と遺族代表は広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式で、この1年に死亡が確認された5393人の名前を記した原爆死没者名簿を原爆慰霊碑下の奉安箱に納めました。名簿の記載人数は合計31万4118人になりました。/ 長崎に1945年8月9日午前11時2分原爆が投下されて、今年は73年。この1年間で死亡が確認された3511人の名前が記された原爆死没者名簿が長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で、奉安されました。今年から名簿に登載されることになった、国の指定する被爆地域外にいたために被爆者として認められていない68人も含めて、死没者の総数は17万9226人になりました。長崎の式典にはアントニオ・グテーレス国際連合事務総長が参列しました。事務総長の参列は初めてです。/ 原爆で亡くなった方々一人一人の人生を思い、世界中の人々と共に、二度と戦争はしないことを誓いたいです。(FN)

歴史系学会・シンポジウム開催情報

教育史学会 第62回大会

会期=2018年9月29日~30日 会場=一橋大学 国立西キャンパス

◆問合せ(大会準備委員会)kyouikushi62@gmail.com ◆HP=詳細あり

経営史学会 2018年度54回全国大会

会期=2018年9月29日~30日 会場=京都大学

◆問合せ(経営史学会事務局)jimukyoku@bhs.ssoj.info ◆HP=詳細あり

2018年度 日本史研究会大会

会期=2018年10月13日~14日 会場=佛教大学 紫野キャンパス*

◆問合せ(日本史研究会事務局)jimu@nihonshiken.jp ◆HP=詳細あり

日本民俗学会 第70回年会

会期=2018年10月13日~14日 会場=駒澤大学 駒沢キャンパス

◆問合せ(年会実行委員会)minzokugaku70@gmail.com ◆HP=詳細あり

地方史研究協議会 第69回(神奈川)大会

会期=2018年10月20日~21日 会場=横浜市開港記念会館*

◆問合せ(地方史研究協議会事務局)chihoshi@muh.biglobe.ne.jp ◆HP=詳細あり

日本考古学協会 2018年度大会

会期=2018年10月20日~22日 会場=静岡大学 静岡キャンパス*

◆問合せ=静岡大学人文社会科学部考古学研究室 ◆HP=詳細あり

第93回 経済史研究会

会期=2018年10月27日(土)14時~17時 会場=大阪経済大学 G館3階 共同研究室I

◆問合せ(日本経済史研究所事務局)nikkeisi@osaka-ue.ac.jp ◆申込方法=メールにて ◆HP=詳細あり

東方学会 平成30年度秋季学術大会

会期=2018年11月10日 会場=芝蘭会館別館(京都市左京区吉田牛ノ宮町)

◆問合せ(東方学会事務局)iec@tohogakkai.com ◆参加方法=メール・FAXで10月31日までに申込み ◆HP=詳細あり

史学会 第116回大会 公開シンポジウム「奴隷と隷属の歴史(仮題)」

会期=2018年11月24日~25日 会場=東京大学 本郷キャンパス*

◆問合せ(史学会事務局)shigaku@l.u-tokyo.ac.jp ◆HP=詳細あり

第28回 神保町ブックフェスティバル

チョット汚れておりますが…「本」の得々市バーゲンセール

会期=2018年10月27日~28日 会場=神保町すずらん通り*

◆問合せ(神保町ブックフェスティバル実行委員会) 電話 03-3291-5185

*印の会場では、歴史書懇話会による出張書籍販売がございます。

仏教の歴史 2

—東アジア

末木文美士 編

四六判 336頁 十口絵 8頁
本体 3500円

インドで興起しアジアに広く伝わった仏教。中でも中央アジアを経由し、東アジアに入った仏教は、中国を中心に朝鮮・日本が相互に閑連し発展していった。その漢伝仏教を、時代を追って紹介する。

横浜華僑社会の形成と発展

—幕末開港期から関東大震災復興期まで

伊藤泉美 著

A5判 520頁 本体 8000円

幕末の開港以後、中国人が横浜に進出し、中華街を形成し、それが発展するまでの、横浜華僑社会の歴史的過程を明らかにする。

歴史の転換期

木村靖二
岸本美緒
小松久男
監修

シリーズ
全 11 巻

各本体 3500円

① B.C.220年 既刊

帝国と世界史の誕生

南川高志 編 四六判 280頁

② 378年 既刊

失われた古代帝国の秩序

南川高志 編 四六判 296頁

..... 近刊 - 2018年8月末刊行

③ 1789年 自由を求める時代

島田竜登 編 フランス革命の年として語られる1789年。人々の意識は何に向けられていたのだろうか。ロシアの毛皮商人から東南アジアの海賊まで、世界各地でみられた政治的自由・経済的自由を求める動きを当時の資料にあたりながら追う。 四六判 296頁

日本史リブレット人

A5変型判 各本体 8000円

68 土方歳三と榎本武揚

—幕臣たちの戊辰・箱館戦争

宮地正人 著 新政府軍に敗れた旧幕兵は、甲州から奥州・箱館へ転戦してゆく。幕府の解体過程を辿りつつ、激動の幕末に旧幕陸軍・海軍のキーパーソンとして活躍した二人の生き様を描く。120頁

74 岩倉具視

—幕末維新期の調停者 坂本一登 著

幕末維新期の大きな変革の時代の中で、国家建設のために生涯をさげた岩倉具視。これまでのさまざまな評価を再検討しながら、政治家岩倉の等身大の姿を描く。112頁



日本史リブレット

A5変型判 120頁 本体 8000円

82 戦国時代の

天皇

末柄 豊 著

室町幕府が衰退し、支えを失った朝廷は困窮していった。難しい舵取りを迫られた天皇が守ろうとしたものは何か。日記などから考える。

世界史リブレット人

A5変型判 108頁 本体 8000円

50 ルター

—ヨーロッパ中世世界の破壊者
森田安一 著 新しい信念を携え、カトリック体制や過激派宗教改革者と戦い、近代社会の扉へと近づいたルター。その一生を追うとともに、宗教改革時代の歴史的考察を進め、ルター派の容認までをみる。

山川出版社

東京都千代田区内神田 1-13-13
電話 03-3293-8131 <https://www.yamakawa.co.jp/>

[価格は税別]

飛鳥・藤原の宮都を語る

「日本国」誕生の軌跡

相原嘉之著
1900円

飛鳥・藤原の地は、六世紀末から八世紀初めにかけてわが国の中心として栄えた。推古朝の豊浦宮などの発掘・高松塚古墳壁画の救出・新発見を語るコラムなどを掲載。マスコミを賑わした新発見については「旬の話題」としてコラムにまとめ、天皇を中心とした「日本国」誕生の過程を探る。

松井友閑

(人物叢書別)

竹本千鶴著
23000円

織田信長の法体の側近。堺代官をつとめながら、將軍足利義昭や上杉・伊達・大友ら大名家、本願寺などのほか、逆心家臣との交渉役として活躍。文化の才にも秀で、「大名茶湯」を開花させ、晩年は文化人として過ぐす。信長の信任篤く、内政・外交に奔走した生涯をたどる初の伝記。

473 書物と権力

中世文化の政治学

前田雅之著 印刷技術が未発達な中世において、人は書物をどう入手していたのか。連歌師の流通への関与、伏見宮家から足利將軍への風雅集・附与など、書物の伝播普及と権力との結びつきを解明。古典的書物を持つことの意味に迫る。
1700円

474 室町將軍の御台所

日野康子・重子・富子

田端葵子著 室町將軍歴代の妻となった公家の日野家出身の女性たちは、飢饉や十一揆の頻発した難しい時代をどのように生き抜いたのか。足利義満・義教・義政の妻を取り上げ、その政治的な役割と人生を時代情勢の推移とともに描き出す。
1700円

三つのコンセプトで読み解く新たな「東京」ヒストリー

東京の歴史

みる
よむ
あそぶ

全10巻*(地帯編7冊)9月刊行開始

各2800円

池 享・櫻井良樹・陣内秀信・西木浩一・吉田伸之編 内容案内・送呈
千代田区・港区・新宿区・文京区(地帯編1)
東京駅を有す丸の内、官庁の建ち並ぶ霞が関、花街の赤坂。首都の役割を担いつつ、濃密に過去の面影を残す。何がどう受け継がれ、今を形づくったのか。
(既刊)■先史時代〜戦国時代■江戸時代■明治時代〜現代(通史編1〜3)

お家相統

大名家の苦闘
(読みなおす日本史)

大森映子著
22000円

江戸時代、大名家は世襲で受け継がれるが、後継者がいないとその家は取りつぶされる。突然の事態に関係者はどう対処したか。幕府の公的な記録に表れない不自然な事例から、存続をかけた大名家の苦勞を探る。

建物が語る日本の歴史

海野 聡著 建築物は歴史を語る証人である。国家の威信をかけて建てられた寺院や城郭、人びとが生活した住居など、原稿から近代まで各時代の建物で読み解く、日本建築史入門!
24000円

わきばく日本の歴史

2 中世

国立歴史民俗博物館編 小中学生が日本の歴史と文化を楽しく学べるシリーズ。中世の展示をもとにしたストーリー。性重視の構成で、大人も楽しめる!(第3回)10000円

北条氏五代と小田原城

山口 博著 関東の戦国覇者、北条氏。初代宗瑞の登場から五代氏直の秀吉との東西決戦まで、民政で独自の手腕を見せ、一族が結束して支配を広げた屈指の戦国大名の実像に迫る。(人々あるく)20000円

幕末維新のリアル

変革の時代を
読み解く7章

上田純子公益財団法人僧人性顕彰会編 欧米列強の動き、対外戦略と国内政争、世界観の相克や思想の対立、海防僧・漢詩人の月性が体現した知識人交友圏の成立と政治参加。幕末維新論の最新鋭。22000円

吉川弘文館

〒113-0033・東京都文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151(代表)/FAX 03-3812-3544/表示価格は税別です

PR誌「本郷」定期購読受付中

歴史書懇話会

▶ 会員社名簿 ◀

- 明石書店 101-0021 千代田区外神田 6-9-5 〈担当者：深谷直樹〉
TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1174
- 東京堂出版 101-0051 千代田区神田神保町 1-17 〈担当者：力久尚之〉
TEL. 03-3233-3741 FAX. 03-3233-3746
- 刀水書房 101-0065 千代田区西神田 2-4-1 〈担当者：中村文江〉
TEL. 03-3261-6190 FAX. 03-3261-2234
- 同成社 102-0072 千代田区飯田橋 4-4-8 〈担当者：工藤龍平〉
TEL. 03-3239-1467 FAX. 03-3239-1466
- 塙書房 113-0033 文京区本郷 6-8-16 〈担当者：関口守俊〉
TEL. 03-3812-5821 FAX. 03-3811-0617
- 法藏館 600-8153 京都市下京区正面烏丸東入 〈担当者：西村明高〉
TEL. 075-343-5656 FAX. 075-371-0458
- ミネルヴァ書房 [本 社] 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL. 075-581-0296 FAX. 075-581-0589
[東京支社] 〒 101-0062 千代田区神田駿河台 3-6-1 菱和ビルディング 2F
TEL. 03-3525-8460 FAX. 03-3525-8461 〈担当者：須藤 圭〉
- 山川出版社 101-0047 千代田区内神田 1-13-13 〈担当者：菊池敏彦〉
TEL. 03-3293-8132 FAX. 03-3292-2994
- 吉川弘文館 113-0033 文京区本郷 7-2-8 〈担当者：春山晃宏〉
TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3812-3544

2018年9月1日発行・第239号

発行 **歴史書懇話会**

113-0033 文京区本郷 7-2-8 吉川弘文館内
(非売品)

取扱店